

ご入園・ご進級 おめでとうございます！

お子様のご入園、ご進級、おめでとうございます！ お子様のご入園が初めての保護者の方は、お子様が幼稚園になじめるか、集団生活に適応できるか不安が多々あるかと思いますが、大丈夫です。子ども達は、すぐに幼稚園生活になじむことでしょう。ただ、入園直後は、朝、登園後、保護者の皆様とお別れするとき、「わかれたくない」「おうちにかえりたい」などの思いから、全力で泣くことが多々あります。しかし、それも長くは続きません。1週間、2週間、1か月、それぞれです。

さて、4月です。

初めて入園した子ども達

もも組からばら組に進級した子ども達

ばら組からすみれ組に進級した子ども達

すみれ組からさくら組に進級した子ども達

みんな、新鮮な気分で 毎日を過ごしていることでしょう

みんな、わくわく ときどきで 毎日を過ごしているでしょう

初めておうちをはなれてのせいかつに とまどうことは 大いにあるでしょう

新しいお友達との関りで 最初は衝突することもあるでしょう

新しい先生との関りで 最初はうまくいかないこともあるでしょう

毎日の生活を過ごすことで

幼稚園が大好きになったり

新しいお友達がたくさんできたり

新しい先生が大好きになったり

もちろん、たまには、

幼稚園が嫌いになったり、

お友達が嫌いになったり

先生が嫌いになったりするところもあるでしょう

でも、だいたいは

多くは

ほとんどは

みんなみんな

かけがえのないもの

かけがえのないひとに

なることでしょう



次は、昨年、郡山市家庭教育を支援する会から発行されました『心豊かに 30号』からの抜粋です。新年度のスタートにとっても参考になるかと思しますので、既に読まれた方もいらっしゃるかもしれませんが、まだの方もいらっしゃると思いますので掲載させていただきます。

時々、振り返りながら

保育所 保護者

7歳、4歳、2歳の3人の子どもを育てています。

令和3年に長女が小学校に入学し、それまで以上にてんやわんやの日々が始まりました。ご飯にお風呂、学校からのお知らせ確認、早寝早起き、宿題の確認、持ち物確認して集団登校に遅れないように家を出発！……ということだけで本当に精一杯の毎日です。（それすら危うい時もあります。）

限られた時間の中、つい「がみがみがみが見……」と怒り、後悔。

そんな日は、長女が生まれた日に願ったことを思い出すようにしています。

「どうか、たくさんの人に愛されますように」「きれいなものをたくさん見られますように」

今や友人も信頼できる先生もいて、妹弟と仲良く遊び、郡山の自然の中、元気に育っているのだから、うん、まいった……私の小さいときより立派だわ……と思い眠りにつくようにしています。

新型コロナウイルスが流行り、不安を感じることが多い昨今ですが、今元気に育ってくれることに感謝しつつ、明日も元気に育っていてくれることを願っています。

まだまだ母親修行中！

3人のお子さんを持つお母さん

私の3人の子どもたちは、三人三様で面白い。そんな3人が入学式目前に共通して発した言葉がある。「おべんきょうって、むずかしいの？」「きゅうしょくをのこすと、おこられるの？」「ようちえんがよかったなあ。」

それに対して「お勉強、頑張らないとね。」「給食、頑張って食べようね。」というように声かけをしたあの頃の私にひとこと言っておきたい。

それは“子どもはいつも頑張っている”ということ。親として、「大丈夫」そして「小学校って、とっても楽しいよ。」と安心できる声かけをすべきだった。もっと希望と期待が持てるような言葉かけをすれば…。

振り返れば失敗ばかり。そして、まだまだ母親修行中！

多様性を認めたい

小学校 保護者

私の息子が小学校に入学して一番感じていることは、自分が小学生の頃より環境が大きく変化していることです。そして、「お母さんが小さい時はね。」と話すことが多くありましたが、今の息子の置かれた環境を理解することが大切だと考えるようになりました。

息子は、7つの食物アレルギー症状があります。また、言語発達遅滞もあることから5年間言語療法に通っていました。初めは、自分のせいで息子に辛い思いをさせていると悩み、順調に成長している息子のお友達を見ると羨ましいと思っていました。そんな時、言語療法の先生に「他の子と同じようになってほしいと言うけど、同じじゃなくても良いでしょうか？ この子の良い所は沢山あるよ」と言われ自省心が湧いてきました。

今は、違いを知り、受け止めることや周りの人と互いに違いを認め合い、言葉にして伝えることを大事にしています。そして、日々変化する多様な環境や価値観の中で息子と一緒に成長することを目標にしています。



令和4年度の本園の教育方針は次のとおりです。

楽しい保育を続けよう

I こども第一主義（こどもの笑顔を最優先）

- 1 こどもたちひとりひとりを徹底してかわいがり、そのこどもの育ちをよく理解する
 - ・年齢に応じた「あそび」が中心の楽しい保育の提供
 - ・「躰の三原則」と立腰の継続
 - 挨拶「おはようございます」
 - 名前を呼ばれたら「ハイ」と返事する
 - 履物を揃える、立ったら椅子を中に入れる
 - 立腰（正しい姿勢を身に付ける）
- 2 こどもたちに多様な体験をさせ、感性を育てる
 - ・こどもたちの関心、興味を感じ取り、楽しい保育へつなげる
 - ・日本の良き伝統を伝える・・・「温故知新」
 - 日本古来の行事について、保育者自身がよく理解し、折に触れこどもに伝える
 - 日本古来の行事について、毎月園だよりにて保護者に知らせる
- 3 こどもにも保護者にも安心・安全な環境を整える
 - ・新型コロナウイルス対応は、常に意識し、徹底する
 - 第6波、オミクロン株の拡大
 - 手洗い、うがい、マスク着用、3密を避ける
 - おもちゃ、遊具など備品の消毒
 - 教室の清掃、整理、整頓
 - ・固定遊具の点検（危険個所の確認）
 - ・自然災害（地震、台風等）の発生に備える
 - 避難訓練の実施

II 幼稚園教育要領への対応

→幼児期の終わりまでに（卒園する時に）育ててほしい10の姿
※国が示しているもの⇒幼児教育無償化の根拠

幼児期の終わりまでに（卒園する時に）育ててほしい10の姿

- 1 健康な心と体
- 2 自立心
- 3 協同性
- 4 道徳性・規範意識の芽生え
- 5 社会生活との関わり
- 6 思考力の芽生え
- 7 自然との関わり・生命尊重
- 8 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 9 言葉による伝え合い
- 10 豊かな感性と表現

